学　会　記　事

第72回新潟消化器病研究会

日　時　平成12年7月8日（土）
午後1時より
場　所　新潟市民プラサ
NEXT21ビル6階

Ⅰ．一　般　演　題

1　当院に於ける『テカフール・キメスタット・オタスタットカリウム配合カプセル剤（TS-1）』に対する有効性の検討

星野　弘樹　飯野善一郎（中条中央病院 外科）
柴　康彦　堀川　誠也（同　内科）

今回我々は，TS-1を切除不能胃癌，再発胃癌，術後遺残癌の患者に対し用いその効果，副作用について検討した 平成11年9月より現在まで8例の患者に対し投与し，その奏効率は40%であったそのうち肝転移の1症例でCRを呈した 副作用は，骨髄抑制が71 4%，消化器症状が42 9%て（全てgrade 2以下）に認められた TS-1の投与により，5-FU注を中心とした注射剤による併用療法と同等の奏効率を軽微な副作用て得ることができた

2　消化器癌と刺絡療法

福田　稔（二王子温泉病院 刺絡科）
安保　徹（新潟大学医学部 医動物）

癌やアトピーを含めた難病と言われている疾患は自律神経が一方的に片寄った状態で発症している事が判った そしてその殆どは交感神経が優位に立ち，白血球中の顆粒球は多く，リンパ球は減少しており，局所では虚血状態になっている事が判った 一方副交感神経が優位に立ち，顆粒球は少なく，リンパ球が多くなり，局所ではうっ血状態て発症している患者は極く稀であることも解った

いすれにしても交感神経が優位になって発症する疾患は治療が困難て，副交感神経が優位になり発症する疾患は治療が容易てあることも判った この様に多くの難病と言われている疾患はその始とが交感神経が優位になって発症しているのてあるから，交感神経を刺激するステロイド剤，鎮痛剤，抗癌剤，照射，手術等々は大変危険な治療法てあることを一刻も早く認識すべきであると考えられる

3　当院におけるCT Angiographyの現状と問題点

森　茂紀　柏村　浩（信泉園病院 内科）
柳沢　善計　村山　久夫
石川　卓　早見　守仁
佐藤　攻　清水　武昭（同　外科）
加村　毅（新潟大学 放射線科）

当院ては，平成11年2月より血管造影下CT（CTアンキオ）を開始し，計22例に24回施行した CTアンキオは，血流動態を鋭敏に反映し，主に肝腫瘤性病変の診断，治療に役立っているが，種々の問題点を経験した 搬送方法，チューフ逸脱，血管分枝の破格に伴う造影方法の煩雑，ダイナミックCTと大差無い症例，門脈塞栓やA-Pシャントによる検査不十分症例，CTAPにおける多発微小欠損像の存在とその判断なとてある また，試みとして，膵癌症例の脈管浸潤の把握のために，CTAPをもとに3D画像を合成した CTアンキオの利点，欠点を認識し，症例経験を蓄積していくことが必要と考えられた